

自社開発の飼料を使ってブランド卵

小原飼料畜産株式会社（和歌山県橋本市）

ビタミンが豊富で栄養たっぷり。オレンジ色に輝く卵黄には甘みとコクがあり、しかもコレステロールが少ない。和歌山県橋本市の小原飼料畜産株式会社が提供する「金剛卵」はスーパーなどで販売されている普通のタマゴとはひと味違う美味しいタマゴである。

同社は昭和39年創業の配合飼料の卸商であるが、創業者である先代社長が美味しいタマゴをとという熱い思いから同社のオリジナルブランド卵を創り上げた。

美味しいタマゴの秘訣は、鶏に与える同社特製の飼料にある。緑茶、パプリカの他、アルギンゴルド（海藻）やジグビール（ハーブ）など、飼料を手掛ける同社が約7年前に試行錯誤を重ねて開発した。

同社のある橋本市からほど近い自然豊かな金剛山のふもとで、同社は自営・委託を合わせて約14,000羽の赤鶏を飼育する。新鮮な空気と清らかな水に育まれながら、同社特製の飼料を与えら

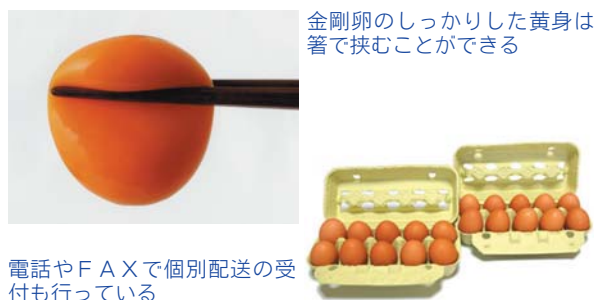
れた赤鶏が産むタマゴがまさに名前のとおり「金剛卵」である。和歌山県や隣の奈良県のスーパーに出荷するほか、直売所では神戸・大阪方面のリピーターのお客様が年々増加しており、まさに同社の金のタマゴでもある。

一方、同社では、これまで培ってきた配合飼料に関するノウハウを生かして、新たな水産飼料の開発にも取り組んでいる。本州最南端の串本町では養殖鯛の生産が行われている。和歌山県は全国一の梅の産地。同社は梅干しをつくる際に出る梅酢を配合した特別の飼料を養殖場に提供する。同社の飼料で育った鯛は身のしまりと良質の脂がのった鯛に仕上がる。市場では「紀州梅まだい」というブランドで、通常の2倍の値段で取り引きされている。

また、同社は愛媛県愛南町で養殖されている「ふかうら真鯛」にハーブ入り飼料を提供するなど、付加価値の高い高級魚づくりに一役買っている。

「今後は、金剛卵を使ったケーキやプリンなどスイーツ系にも取り組んでいきたい」と社長の小原まさ子さん。小原社長の心の中には、これまで飼料開発で培ったノウハウと実績を生かして次のビジョンが膨らんでいる。

（井阪 英夫）



金剛卵のしっかりした黄身は箸で挟むことができる

電話やFAXで個別配送の受付も行っている

■金剛卵と通常の鶏卵の成分比較（生卵100g当たり）

		金剛卵	鶏卵
水分	g	77.5	76.1
たんぱく質	g	12.4	12.3
脂質	g	7.7	10.3
灰分	g	0.9	1.0
炭水化物	g	1.5	0.3
エネルギー	kcal	125	151
ナトリウム	mg	159	140
コレステロール	mg	345	420

金剛卵：（財）日本食品分析センター調べ
鶏卵：五訂増補日本食品標準成分表より



本社には「金剛卵」や関連商品の販売コーナーが設けられている。

小原飼料畜産株式会社

〒648-0096 和歌山県橋本市御幸辻138-1
TEL：07436-32-0821 FAX：0736-32-5411
URL：http://www.kongouran.com/